

県政モニタートーク結果概要

■対話テーマ:滋賀のミライ編集会議

■開催日時:令和8年(2026年)7月11日(土)14時00分から15時30分

■参加者数:県政モニター15名、県(企画調整課等)8名

■概要:

滋賀県では、令和8年度中に次期「基本構想実施計画(第3期)」(計画期間:2027年度~2030年度)を策定することとしており、計画の方向性を検討する材料とするために、本モニタートークを開催した。

はじめに基本構想の概要について説明した。その後、3つのグループに分かれ、各グループで目指したいこれからの「滋賀の姿」を描き出し、そこから逆算して、いま課題になっていることや伸ばすべき滋賀の強みについて話し合っていた。そして、目指したいこれからの「滋賀の姿」を実現するために必要な視点や取組について議論していただいた。

■ワーク①:目指したいこれからの「滋賀の姿」

○… いま課題になっていることや伸ばすべき滋賀の強み

◎… 目指したいこれからの「滋賀の姿」を実現するために必要な視点や取組

〈グループ①〉

目指したいこれからの「滋賀の姿」	人~自分らしい未来を描ける生き方~
意見交換	【健康・医療・福祉】 ○ 病院の待ち時間が長い。選べるだけの数の病院がない。 ○ 日常生活で健康を意識する場面がない。 ◎ 健康意識を高める工夫が必要(例:ナッジを使った健康意識の改革)。 【地域】 ○ 地域を跨ぐと、がらりと雰囲気が変わる(急に都会、急に田舎とか)。 ○ 定年後の高齢者の居場所がない。 ○ 年少者と高齢者が交流する場所がない。 ○ ボランティア活動が活発なところが良いところだと思う。 ○ 人が優しい。 ◎ 一部の都市に密集している設備をもう少し分散させた方が良いのでは。 ◎ 行政は高齢者の居場所づくりのために、予算確保とボランティアのネットワーク構築をするべき(参考事例:甲賀市「夢の学習」事業)。 ◎ 高齢者の団体による交流の場づくりができるよう、行政がガイドラインを作成するべき。 【子ども・子育て】 ○ 特に小学生までの子どもの遊び場(屋内・屋外)が少ない。

	◎ できれば無料で遊べるような、芝生の広場とか、雨が降っても遊べるようなフリーゾーンとかあればよい。 【外国人・多文化共生】 ○ 国際交流イベントを活性化すべき。 ◎ 小学生～高校生に向けて定期的なイベントを開催できると、長期的に見ても滋賀の発展につながるのでは。 【交通】 ○ 交通網が弱すぎる（特に竜王町には電車の駅がない）。バスも便数が少ないのに、運賃が高い。学生が困っている。 【産官学連携】 ○ 産官学連携が活発ではない。大学から地域にアプローチすることが多い。 ◎ 産官学連携のパイプをより強化。大学側からだけでなく、地域側から大学に依頼できるような関係づくりができると連携を活発化できる。 【その他】 ○ 若い人が働きたいと思えるようなオシャレなお店とか会社が少ないので、滋賀で育っても結局出て行ってしまう。すごく勿体ない。 ○ こんなに農作物が獲れるところなのに、高い。 ○ 滋賀にずっと住んでいるが、他府県から滋賀に来ている人が多い。 ◎ 「琵琶湖しかないやん」って言われる滋賀県だけど、その琵琶湖が良いと言うことをもっとアピールできるとよい。 ◎ 大きな企業を呼び込めると、働く人も増えるし、税収も増える。 ◎ 社会人でも気軽に受講できる講座とか、大卒資格を狙える学校とか、やっていただければ、たくさんの人が滋賀県に来ると思う。 ◎ ビワイチと並べて、電車で乗り換えなしに琵琶湖を1周回れるようにできればいい。
--	--

〈グループ②〉

目指したいこれからの「滋賀の姿」	住民に優しい滋賀
意見交換	【交通】 ○ 公共交通機関の充実。公共交通をどのように維持するのか。 ○ 行きたいところが駅から遠い。 ○ （湖上交通は）観光としては良い資源。 ◎ 湖岸沿いの方の交通手段になるような湖上交通はどうか。 ◎ 送迎バスを多くする。地域のコミュニティバスやボランティアの活用。 ◎ 病院、スーパー、博物館などの送迎バスを増やす。 【地域とのつながり】 ○ 地域や多文化・多世代の交流の活性化が必要。

	○ 病院を井戸端会議で使用しない。 ○ 若い世代がもっと強くなれば高齢者を支えていけるのでは。 ◎ 不登校の子どもの居場所の創出。 ◎ 子ども(小～高)が異なる年代で関われる環境づくり。 ◎ 図書館などの居場所の創出。 ◎ 地域人材の活用。ただし、ボランティアに過度に依存しない。無料奉仕が前提となるとやっている側が辛くなり、維持できない。 【居住関係】 ◎ 過疎地の人が市街地に移り住む際に優遇することはどうか。 ◎ 働かなくとも、住み続ける選択が取れるようにしてはどうか。
--	--

〈グループ③〉

目指したいこれからの 「滋賀の姿」	—
意見交換	【交通】 ○ 滋賀県は交通インフラ(特に鉄道)が弱い。 ○ 一方で、自動車移動は楽(駐車場が多いため)。 ○ 湖北に住んでいるが、スーパーなどが遠く、生活には車が不可欠(買い物難民)。 【教育】 ○ 湖北地域は私立高校が少なく、進学の実選択肢が少ない(私立に行こうとすると、長時間の通学を強いられる)。 【医療】 ○ 子どもが熱を出したときに、頼れる病院が少ない(大きな病院に行くだけで、片道1時間かかる)。 【観光・文化】 ○ 観光地として自然や文化など、いいところはたくさんある。しかし、知られていないところが多すぎる。 【その他】 ○ 外国人や県外の人を含めて、“人材”ではなく“人財”で考えるべき。 ○ 安全・防災について考えるのなら、獣害について考えるべき。(地元の三上山でも獣害が出始めている。) ○ 人口が少なくなっていくため、今後はより一層、AI等をはじめとした先端技術の利活用を進めていくべき。 ○ 県外から移り住んでみて、地域とのつながりがあまりないと感じる。

■ワーク②:「私にとっての幸せ」とは?

〈グループ①〉

- ✓ 迷惑をかけない範囲で、やりたいことをやる。たとえ、成功しなかったとしても、自分自身がやりたいことをして、満足していれば、幸せと感じる。
- ✓ ポジティブに社会課題を解決していこうという精神をみんなが持っていれば、社会の方向性としても幸せに繋がっていく。
- ✓ 還暦を超えた今は健康であることが幸せだと感じる。
- ✓ 健康が全てだと思うが、健康な状態で、学び続けることが幸せだと感じる。いろんな人と出会って、喋って、自分が前に進めている状態が幸せ。
- ✓ 仕事が忙しいと、健康を維持できないし、プライベートの時間もないから自分らしさも発揮できない。子育て・結婚も考えられなかった。仕事の環境を行政の力で整えてほしいし、大事なことだと思う。
- ✓ 今までは、家族の幸せ=私の幸せだった。子どもが大きくなって家を出たら、夫婦(個人)の生活になる。周囲の人の幸せが自分の幸せなのはもちろんだが、自分自身で完結できる幸せをこれから見つけていかなければいけないと感じる。今までやりたくてもできなかったことに挑戦するとか、興味のあることを学び直すとか。まだ具体的には見つかっていないが、これから見つけていきたい。

〈グループ②〉

- ✓ 母親とか長女といった立場から離れて、自身が幸せと感じることが幸せ。
- ✓ 身の回りの方が病気になることが多い。“そこそこ”家族に問題がないという状況であれば幸せ。ある程度で甘んじることが必要。
- ✓ 学ぶことができるということが幸せ。健やかであることは幸せの根源であり、やりたいことをやれる環境が幸せ。
- ✓ 投資しており、更なる幸せを求めてしまうが、そこそこの幸せが維持できれば十分だと感じた。
- ✓ 子どもが3人いて、それぞれ自立しており幸せを感じている。今は自分自身の幸せを求めており、自身の趣味や、新しい分野にチャレンジしている。

〈グループ③〉

- ✓ 楽しいと思えたとき。
- ✓ 関わりのある人と共感できるとき。
- ✓ 満足するときに幸せを感じる。
- ✓ 苦労があっても、報われたら幸せ。
- ✓ やったときに喜んでもらえるとき。
- ✓ 不安がないとき。(不確実性がない)
- ✓ 客同士の距離が近い。